

新川会通信

第54号

# すまいる

発行  
社会福祉法人新川会

〒930-0362  
上市町稗田字七郎谷1-32  
Tel(076)472-1118  
Fax(076)472-5391  
E-mail yotsubaen@niikawakai.jp  
HP <http://www.niikawakai.jp/>

発行責任者 山岸親史



## ＜テーマ＞ 新しい取り組み

**隙間のないサポートに向けて**

統括管理者 山 岸 親 史

この数年間は、障害福祉関係者も、新型コロナウイルス感染症の話題ばかりでしたが、「息ついています。近年の障害福祉の動向について考えてみたいと思

い新川会は、四ツ葉園のほか、通所事業所四か所、四棟のグループホームを運営しておりますが、法人も創立から三十年が経過し、制度や社会情勢も変化する中で、障害を持つ方の地域生活について、その時々のニーズに答えていくことが求められて

ます。今年度から二つの(仮)アクションプログラムをスタートしてます。

まず、重度障害者の地域生活支援ですが、これまで、強度行動障害を有する方の支援は施設を中心で考えられてきました。しかし、入所施設の満床状態が続いていることもあり、グループホームでの受け入れや、短期入所等の集中的支援と環境調整を実施しながら地域生活に向けて状態の安定を図るという、具体化するにはとても多くの困難が想定される方向性が示されています。

このことについて、法人では、現在、強度行動障害の方にむけた対応できるような小規模グループの支援構想を練っています。

もうひとつ、障害児支援については、社会状況の変化(女性の就労率の上昇等)を踏まえた現実的なニーズを背景に、放課後等デイサービス事業等に様々な事業者が参入してきており、障害特性を踏まえた適切な支援が求められているところです。

こうした中、新川会は、この四月から、滑川市の多機能型事業所「新川会第一苑」を開始いたしました。専門機関として、幼児期から行動的障害リスクを把握して療育を実施することで、御家族を含め、ライフステージを通して、安心して地元生活が送れるよう支援していくことにあります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申します。

隙間のないサポートに向けて

(※) アクションプログラムとは、政策や企画を実施するための基本方針や、それを具現化するための行動計画



放課後等デイサービスは、小学校低学年から高校三年生までの子どもたちが、放課後に利用することができる施設です。つつじ苑では、学校のある日は支援学校の送迎バス降車場所まで迎えに行き、つつじ苑についてからは、学校の宿題や課題プリントを行い、終わるとおやつを食べ、友達と交流したり、おもちゃで遊んだり、様々な体験活動を行っています。

## 特集 放課後等デイサービス つつじ苑



放課後等デイサービスでは、保護者の方が仕事などで家にいない時間帯に子どもを預かることがありますので、保護者は安心して日々の生活を送ることができます。また、児童指導員、保育士資格所持職員などの専任スタッフが子どもの安全や健康に配慮しながら適切な指導、支援を行うため、教育的な効果も期待できます。また、様々な体験活動やイベントを行っています。五月は、造形活動として「母の日のプレゼント作り」を行いました。



放課後等デイサービス事業は、始まつたばかりですが、地域の皆さんに知つてもらえるよう頑張っていきます。

放課後等デイサービスが開所した経緯として、保護者の必要性に応じるために民間事業者が参入したことにより、放課後等デイサービスの数が増え、障害のある子どもたちの放課後の居場所が増えました。しかし、療育内容やプログラムの質に差があるため、療育的な関わりをせずに単なるお預かりになつてゐる放課後等デイサービス事業所があることが問題視されています。

放課後等デイサービスでは、保護者の方が仕事などで家にいない時間帯に子どもを預かることがありますので、保護者は安心して日々の生活を送ることができます。また、児童指導員、保育士資格所持職員などの専任スタッフが子どもの安全や健康に配慮しながら適切な指導、支援を行うため、教育的な効果も期待できます。また、様々な体験活動やイベントを行っています。五月は、造形活動として「母の日のプレゼント作り」を行いました。



（藤井丈児童指導員 記）

## 四ツ葉園だより

今年度の目玉を2つ紹介します！

ひとつめは  
汗をかいて歩こう！

四ツ葉園内での生活では、冷暖房が完備しております。夏は涼しく、とても過ごしやすい環境となっています。そのため、日常生活においてなかなか汗をかく機会がありません。汗をかくことは「究極のデトックス」であり、老廃物や余計な水分を排出することです。

では、冷暖房が完備しており、冬は暖かく、ながら、四ツ葉園から丸山公園まで休憩を挟みながらも、往復1時間かけて歩いています。みなさんご存じかと思いますが、四ツ葉園には最大の難所、凄まじい坂があります。丸山公園まで往復すると約2kmあり、疲れがピークの帰り道にその難所の上り坂が現れます。当初は職員も心配していましたが、皆さんの予想以上に体力で、「もう少しだ、頑張るぞ！」とラストスパートの坂も弱音を吐くことなく、歩ききっておられができます。「汗をかいて歩こう」とは、班活動充実計画として掲げている、やまびこ班の目標です。今年度から丸山公園歩行チームを発足し、4月より開始しています。外に出ることが大好きな利用者さんが多く、「丸山まで頑張って歩くぞー！」と言う支援員の声に、続々と利用者さんが集まり、自ら帽子を被られ、



ます。今では「良い天気だね」「花咲いとるね」と、歩くことだけではなく、周りの風景にも目を向ける言葉も多く聞かれるようになりました。中には坂道を走り出す利用者さんもおられ、職員も負けないよう、皆さんと一緒に頑張っていきます。

（井原支援員 記）

このたび、「株式会社しまむら」様の協力を得て、園内で出張販売をすることになりました。利用者さんの希望が今回の販売に繋がったことはとても嬉しいことです。これからどんな風に広がっていくか私達も「しまむら」様も楽しみにしています。

ふたつめは  
しまむら衣類販売開始

### 車椅子寄贈

いつもお世話になつている「おみでんき株式会社」様より、車椅子を1台寄贈していただきました。

いつもありがとうございます。  
大切に使わせていただきます。



## 雷鳥苑だより



昼休み後の活動時間の始めの時間に歯磨きをしています。時間をかけ鏡を見て自分で歯磨きができるようになるのが目標ですが、うまくできない方や磨き残しがある方もおられるため自分で磨かれた後には、椅子に座つて職員が仕上げ磨きをしています。

を始めています。利用者さんたちはが交代で芋の焼き加減や温度を確かめたり、芋の配置場所を変えたりしてもらっています。まだ、始めたばかりで上手に焼けませんが、練習を重ね、新しい壺が届く頃には、美味しく焼き上げられるようにしていきます。

(廣瀨支援員記)

雷鳥苑だよ

今年度の新しい取り組みやコロナ感染症対策で中止していたことで生活介護では歯磨きの再開、就労継続支援B型では、焼き芋づくりに挑戦していきます。

磨きを三月六日から再開しました。

まず生活介護では、歯

口を大きく開けられない方や嫌がられる方もおられます。ですが、数を数え仕上げ磨きに応じてくれています。

今後も継続して歯磨きを行ってい、歯周病や虫歯予防に努めたいと思います。

就労継続支援B型では、壺やき芋作りを始めます。現在、新しい壺の申請をしており、まだ雷鳥苑には届いていませんが、雷鳥苑にある壺で芋を焼く練習

## スタート&チャレンジ

口を大きく開けられない方や  
嫌がられる方もおられます。が、  
数を数え仕上げ磨きに応じてく  
れています。

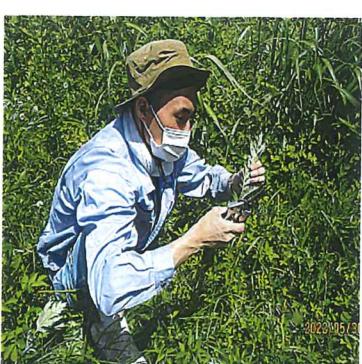
## さつき苑だより

令和五年度の取組み

ばかりではなく、天気が良い日はできるだけ外へでて散歩や気分転換をしていきたいと思います。

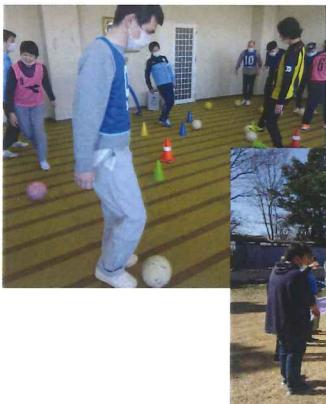
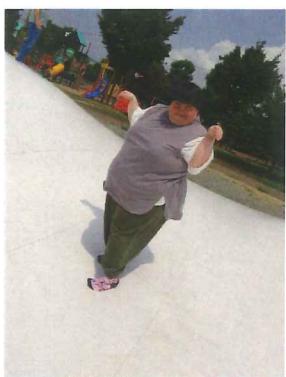
班活動の作業内容をコロナ禍以前に戻す事と共に、行事もコロナ禍以前に戻せたらと思います。利用者さん、保護者さんにとつての楽しい一年になるように計画していきます。

(村上支援員記)



五月よりさわやか班と工芸班の活動場所とグループを変更し、各利用者さんの特性に合わせた班活動を行っています。丁芸班では木工作業や入浴雑貨作りなどの商品作りを日課として一人ひとりのやる気に繋げたいと思います。さわやか班は個人の特性に合わせた作業に集中できるように配置しました。作業

令和五年度は「活動の見直し」を目標に進めています。昨年度できなかつた当帰栽培を今年は復活しました。また、よもぎや、くま笹採取を色々な利用者さんに参加してもらい、浴雑貨の生産量を増やしていくります。初めて参加される利用者さんは、緊張しながらも外出含めて楽しんでおられます。他にも昨年度に引き続き、さつまいもやラベンダーの栽培も予定しており、五月下旬にさつまいもの苗植えを就労班と工芸班中心に行いました。昨年度はコロナ感染症の影響で燻き芋パーティを開催することができませんでした。今年は是非！たくさん芋ができるようにお世話を頑張り、皆さんで焼き芋を食べたいと思います。



つつじ苑では、日頃より運動に力を入れています。目の前には行田公園があり、公園内を散歩したり、時には芝生広場でフライングディスクをしたりしています。生活介護班は、運動の時間を設けており、滑川市スポーツ健康の森まで往復2キロのコースを散歩したり、公園に行き遊具で遊んだりしています。また、室内運動では、好きな曲を流しながら、トランポリンやバランスボールのエクササイズを行っています。そして昨年度より、元Jリーガーの講師をお招きし本格的なサッカー教室も行っています。

## つつじ苑だより

**楽しく身体を動かそう!**

つつじ苑では、日頃より運動に力を入れています。目の前には行田公園があり、公園内を散歩したり、時には芝生広場でフライ

ングディスクをしたりしています。生活介護班は、運動の時間を設けており、滑川市スポーツ健

康の森まで往復2キロのコースを散歩したり、公園に行き遊具で遊んだりしています。また、室内運動では、好きな曲を流しながら、トランポリンやバランスボールのエクササイズを行っています。そして昨年度より、元Jリーガーの講師をお招きし本格的なサッカー教室も行っています。

今年度は新たに「スロー・エアロビック」「3B体操」「ヨガ」の講師をお招きし、取り組む予定です。音楽が好きな方が多く、身体を動かしている時には、とても良い笑顔や笑い声がたくさん飛び交っています。身体を動かすことは、体力維持はもちろん、心身のリフレッシュにも繋がっています。昨年度に引き続き、運動に力を入れて、身体を動かすことの楽しさを感じる一年にしたいと思います。

(岡部支援員記)

## 工房よつばだより

**新年度がスタートして**

男性6名、女性6名の合計12名で今年度のスタートを切った工房よつばです。今回は、

今年度力を入れて、いきたい取り組みについて紹介します。

今年度も力を入れて、いきたいのが、自主製品の入浴雑貨「贅沢なよもぎ風呂」です。より良い品質を

取っていただき機会が増えていくよう、取り組んでいきたいです。さらに、食品加工への取り組みも行っていきたいと考えています。工房よつばの畑では野菜を栽培していますが、規格外のものが出来る場合もあります。そのような品をフレークやお茶等の加工品の作成材料として使用し試作を重ね、自主製品作りのきっかけに繋がる取り組みを行っていきたいです。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと引き下がったことで、これまで制限のあった行事や地域交流について、少しずつ緩和されていくこととなります。周囲との関わりの機会を大切にしながら、今年度も工房よつば一丸となつて活動に取り組んでいきます。

1枚1枚、丁寧に選別中です!



求め、採集から選別、手洗いで丁寧に行っています。主に上市町内の複数店舗で販売させていただいているが、現在は、県外在住の方からのお求めも多くなっています。今後多くの方に知っていたとき、手

今年度もみんなで頑張ります☆



(朝岡支援員記)



(柿沢支援員 記)

## グループホームだより

### コロナ禍前の 日常に

今年度はコロナ禍で制限され、以前のように少しづつ戻しながら、外出や行事、イベント参加の機会を設け、皆さんで楽しい時間を一緒に共有できるようなことを行いたいと思っています。夏はBBQ、冬は新川会のグループホームが一堂に会しての新年会など：楽しめが尽きませんね！

### GW外出

GW帰省が無い方も少しでも楽しんでもらえるよう、五月六日（土）新川地区方面へ外出しました。魚津市内のお店で靴や衣類、雑貨や本など各々が欲しい物、興味があるものを見たり、気に入ったものは購入したりしてショッピングを楽しみました。



昼食はココス魚津店へ行きました。久しぶりの外食の機会だったこともあり、お店の雰囲気に緊張した様子も見られましたが、自分で食べたいものを選んで注文し、皆で一緒にテーブルを囲んで食べる食事に自然と緊張も和らぎ笑顔がたくさん見られました。

○ それではまず所属先とお名前を教えてください。

A 新川会グループホームで世話をしている佐藤 勝生（さとうかついく）です。

○ グループホームでは具体的にどんなお仕事をされていますか？

A 主には利用者さんの食事のお世話で、献立を考えて食材の買出しや調理をしています。他には内服薬の準備や薬の塗布をしています。当然ではありますが、利用者さんの話を聞いてあげるなどコミュニケーションも大切にしています。

○ グループホームでの仕事をする中で大変だった事や、勉強になつた事などあれば教えてください。



写真中央：佐藤世話人

### 職員インタビュー

○ 休日はどのようにしてリフレッシュされていますか？

A お風呂が好きなのでよく温泉に出かけています。

○ 最後に広報誌を読んでいる皆さんにメッセージをお願いします。

A グループホームの世話人という仕事をご存知ない方もいると思いますが、大変やりがいのある仕事です。興味のある方は是非とも声をかけて下さい。できるだけ、家族同様になれるよう利用者さんに寄り添いたいと思っています。

A 障害をもつ利用者さんが何を考

えているのかなど、付き合いの方やそれぞれの特性に寄り添った接し方について深く考えるようになります。